川上宏奨学基金受給研究

研究結果の概要

卒業論文題目『メラネシアにおける西洋化と貧困―フィジーを実例として』

私はフィジーを訪問したのをキッカケでフィジー社会に興味を持ち、深く調査しようと考えた。そこでアン・ベッカーの「フィジー諸島でのテレビ番組に影響された拒食症の発生」という研究を知り、テレビに映る西洋のモデルなどの影響によって少女たちは自分の体型をより細くしようとしているという結果が、現在でも出るのかという疑問を持った。また、少女だけでなく、ベッカーが対象としていなかった、幅広い年齢の男性と女性、先住フィジー人とインド系フィジー人（プランテーションのためインドからの移住者の子孫）を対象にしたフィジー住民に、体型を含めた他の部分でも西洋化の影響がみられるか、みられるとしたらどのような部分で、何が原因かを調査したいと考えた。

調査方法は、フィジーにおいてアンケート調査の実施及び、現地住人へのヒアリングを行なった。アンケートの調査票は英語版とフィジー語版を用意し、主にフィジーのスバ・ナンディ・ラウトカの都市で計 170 枚を配布し、128 枚を回収した。

以上の調査から、体型の調査では、ベッカーが調査していたときよりもより西洋化が進んでいて、幅広い年齢、男性女性、先住フィジー人とインド系フィジー人の回答したほとんどの人が、現在細い体型であり、理想の体型もより細いほうが望ましいと回答していた。さらに、理想体型になるために運動したり、ヘルシーな料理を食べたりする人がほとんどで、今回の調査では、ベッカーの調査のような摂食障害を疑わせるような回答は無かった。また、理想体型になりたい理由には、健康を維持したい人や良い見た目になりたいからという人が大多数だったが、男性の中には異性にもてたいからという意見もあり、異性の好みも痩せている人のほうが好ましいというふうに変化していた。このような変化や、街のオフィスでの運動推奨ポスターなどから、現在のフィジー社会では、細い体型のほうが伝統的な大きい体型よりも望ましいという結果が解釈でき、大きく西洋化が進んでいると解釈できる。

メディアに関する調査では、ベッカーの調査時に比べて、テレビの普及が進み、ほとんどの家庭にあり、ほとんどの年齢層で平均視聴時間が同じという結果であった。テレビ視

聴時間と体型それぞれで対象間でほとんど差が無かったため、２つの間で相関は見られなかった。その一方で、インターネットにおいては、特に若い人の間でテレビ以上に長時間利用されているという結果が出ていて、インターネットを用いて、SNS をしたり動画サイトで海外のドラマや映画を視聴したりしている若者がいる。それだけでなく、外国の情報を得る手段として約半数がインターネットと回答しており、現在フィジー住人が外国からの影響を大きく受ける媒体はインターネットであると考えられる。さらに、ネットの利用環境も急速に整備されているため今後の利用者数の増加は確実であり、より西洋化の原因となりえると推測できる。また、海外の情報に触れる機会として、テレビやインターネット以外に DVD も挙げることができ、ここ数年で町のレンタルショップの数も増加している。このように、今後、より多くの媒体から西洋化の影響があると推測することができる。

伝統行動に関する調査では、年齢間と人種間で伝統行動の結果に差がみられた。フィジー住人の 90%近くの人が、伝統や文化を守ることは重要なことであると回答した一方で、伝統行事や料理をよく実施するかという質問に対しては、年齢が若くなるほどよく実施するという人の割合が低いという結果であった。さらに、人種間で比較すると、両質問ともにインド系フィジー人が先住フィジー人よりも実施する人の割合が有意に低いという結果が出ていて、他の服装などの質問に関しても、インド系フィジー人のほうが先住フィジー人よりも西洋的であると解釈できる。このような結果から、主に年配の先住フィジー人が伝統を守り継承していることがわかるとともに、インド系フィジー人のアイデンティティーの帰属は複雑であると予想することができる。

アンケート調査の結果と現地住人へのヒアリングから、フィジー住人は、現在インターネット、マスメディアなどの多くの要因から外国の影響を受け、外見意識などの部分ではかなり西洋化が進んでいるという結果が出ていた。その一方で、伝統や文化ではある特定のカテゴリーの人が守り継承していることが明らかであった。このようにフィジー社会では西洋化している部分と、意識的にフィジーの伝統を守っている部分の混在が見られた。

最後に、本研究は川上宏奨学基金の助成を受けておこなったものです。故川上宏先生とそのご遺族に、この度の奨学金の給付について、深く感謝申し上げます。誠にありがとうございました。